

・福地哲郎

○食品中の農薬及び動物用医薬品等の残留基準データベースの開発

第 34 回九州衛生環境技術協議会

(平成 20 年 10 月 9 日 長崎市)

食品中に残留する農薬等の検査においては、検査結果が残留基準に適合するかを確認する必要がある。残留基準は、農薬等(基準値の定めがあるものでは、約 800 成分)と食品の組み合わせにより異なる。また、平成 18 年施行の改正食品衛生法により基準値の定めがない農薬等と食品の組み合わせには一律基準(0.01 ppm)が適用されることとなり、さらに、基準値の定めのない抗生物質及び合成抗菌剤はすべての食品に対して含有禁止とされている。その他にも確認すべき事項があり、残留基準は非常に複雑である。そこで、コンピューターを利用した効率化を目指し、市販ソフト(Microsoft Office Access2007)を利用した残留基準データベースを開発したので、その内容について報告した。

・中村雅和, 友寄喜貴<sup>\*1</sup>, 大石興弘<sup>\*2</sup>, 九州衛生環境技術協議会大気分科会, 山口県環境保健センター

○九州・沖縄・山口地方酸性雨共同調査研究について

第 49 回大気環境学会年会

(平成 20 年 9 月 17 日 金沢市)

<sup>\*1</sup>: 沖縄県衛生環境研究所, <sup>\*2</sup>: 福岡県保健環境研究所

九州地方知事会で「酸性雨観測体制の整備の連携」が政策連合項目として選定されたことに伴い、その一環として九州・沖縄・山口地方酸性雨共同調査研究を実施した。湿性沈着は平成 14 ~ 18 年度のデータ, 乾性沈着は平成 17 ~ 18 年度のデータを使用して解析した。解析の結果, 降水中の  $\text{nss-SO}_4^{2-}$ 濃度は本地方の北に位置する地域ほど高く,  $\text{nss-SO}_4^{2-}$ 湿性沈着量は, 「九州北部」で他の地域より多い傾向が認められた。これらのことから, 気流等を考慮すると, 本地方では冬期に, 大陸からの移流の影響を受けていると考えられた。また, 平成 18 年度春期には, 「九州西部」を中心に  $\text{nss-SO}_4^{2-}$ 湿性沈着量が顕著に増加しており, 光化学オキシダントも

同時期に高濃度事例が観測されていることから, 大陸からの移流の影響によるものであることが推察された。さらに, 粒子状の  $\text{nss-SO}_4^{2-}$ 濃度の季節変化が光化学オキシダント濃度の季節変化のパターンと類似していることから, 汚染原因に共通する要因がある可能性が考えられた。今後, 光化学オキシダント等の他の研究とも連携してさらに研究を継続し, 大陸からの越境汚染の影響をより明らかにしていく必要があることを報告した。

・中村雅和, 岩切淳, 富山幸子, 友寄喜貴<sup>\*1</sup>, 大石興弘<sup>\*2</sup>, 九州衛生環境技術協議会大気分科会, 山口県環境保健センター

○九州・沖縄・山口地方酸性雨共同調査研究について

第 34 回九州衛生環境技術協議会

(平成 20 年 10 月 9 日 長崎市)

<sup>\*1</sup>: 沖縄県衛生環境研究所, <sup>\*2</sup>: 福岡県保健環境研究所

九州・沖縄・山口地方酸性雨共同調査研究の解析結果について報告した。九州・沖縄・山口地方は, 冬期及び春期に大陸からの移流の影響を受けていると考えられた。東アジアの大気汚染物質の排出量は, 今後も増加することが考えられるため, 研究を継続する必要があること及び越境汚染の影響をより明らかにするため, 乾性沈着体制を充実させる必要があることを報告した。

・中村雅和, 岩切淳, 富山幸子, 友寄喜貴<sup>\*1</sup>, 大石興弘<sup>\*2</sup>, 九州衛生環境技術協議会大気分科会, 山口県環境保健センター

○九州・沖縄・山口地方酸性雨共同調査研究について

全国大気汚染防止連絡協議会第 54 回全国大会  
(平成 20 年 10 月 24 日 水戸市)

<sup>\*1</sup>: 沖縄県衛生環境研究所, <sup>\*2</sup>: 福岡県保健環境研究所

九州・沖縄・山口地方酸性雨共同調査研究の取組みや解析結果について発表した。九州・沖縄・山口地方では, 冬期及び春期に大陸からの移流の影響を受けていることを示し, さらに大陸からの移流の影響を明らかにするため, 研究

を継続し、測定データや解析結果を充実させていく必要性を報告した。

・赤崎いずみ，岩切淳，関屋幸一，中村公生，  
富山幸子，祝園秀樹，徳山和秀<sup>\*1</sup>，富山典孝<sup>\*2</sup>，  
迫昭男<sup>\*3</sup>，森下敏朗<sup>\*4</sup>

○県内河川におけるダイオキシン類の分布状況  
及び発生由来の推定

宮崎大学産学連携センター 第 15 回技術・研  
究発表交流会

(平成 20 年 7 月 30 日 宮崎市)

<sup>\*1</sup>: 県立宮崎病院，<sup>\*2</sup>: 環境管理課，<sup>\*3</sup>: 延岡保  
健所，<sup>\*4</sup>: (財)宮崎県産業支援財団

平成 14 年度から 18 年度に測定した，県内  
河川水におけるダイオキシン類について，その  
分布状況をまとめた。また異性体の構成比率か  
ら発生由来の推定を試み，以下の結果を得た。

① 県内河川水のダイオキシン類は全ての地点  
で環境基準を達成しており，全国平均と比較し  
ても低い値であった。

② PCDDs/PCDFs の発生由来としては，すべ  
ての地点で農薬 (CNP, PCP) が推定され，燃焼  
系由来が推定されたのは数地点のみであった。

③ Co-PCBs の発生由来としては主に PCB 製  
品由来が推定された。

・関屋幸一，岩切淳，中村公生，赤崎いずみ，  
中村雅和，富山幸子，高木正博<sup>\*1</sup>

○後背地に広葉樹林あるいは針葉樹林を擁する  
小規模河川の底生動物による水質評価

第 34 回九州衛生環境技術協議会

(平成 20 年 10 月 9 日 長崎市)

<sup>\*1</sup>: 宮崎大学農学部

広葉樹あるいは針葉樹と酸性降下物の関係  
や，河川生態系における底生動物相への影響を  
把握することを目的に，宮崎大学田野演習林内  
の小規模河川 (清武川水系) において，大型底  
生動物による水環境の評価を行い，以下の結果  
を得た。

① 後背地に針葉樹林を擁する地点の河川水  
は，広葉樹林型及び針広混交林型に比べると  
EC, Ca 及び Mg が低く，清澄な水質であった。

② pH の変化に着目すると，本県の降雨は  
pH4.7 程度であるが，森林を通過して河川とな

る間に pH7 以上に上昇し，その効果は，広葉  
樹を擁する河川の方が針葉樹を擁する河川より  
も大きい傾向にあった。

③ 平成 17 - 19 年度の 3 か年の底生動物によ  
る水質評価の結果，後背地に針葉樹林あるいは  
広葉樹林を擁する地点のいずれも良好な水質環  
境であると判断され，両地点間において，底生  
動物による水環境評価指標である ASPT 値や生  
物多様性指数 DI 値に，大きな差異は認められ  
なかった。

④ 針葉樹に比べ，広葉樹林を擁する地点の方  
が，1 科あたりの底生動物個体数が多い傾向が  
認められた。その要因を主成分分析により解析  
したところ，夏期においては河川水中の DO 及  
び Mg 濃度が，また冬期においては T-N 及び Fe  
濃度が影響していることが考えられた。